

文教常任委員会資料

令和 8 年 9 月 9 日

(2026 年)

教育委員会事務局学校教育課

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について

標記の件について、次のとおり報告します。

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の内容

- (1) 調査実施日 令和8年4月23日（木）
 - ・英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」
令和8年4月20日（月）～23日（木）のうち1日
 - ・英語「話すこと」
令和8年4月24日（金）～5月29日（金）のうち1日
- (2) 調査対象 国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年
(原則として全児童生徒)
- (3) 調査内容
 - ア 教科に関する調査
 - ・小学校 国語、算数
 - ・中学校 国語、数学、英語
 - イ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査
- (4) 受検者数
 - ア 小学校 実施学校 18,077校 集計対象児童数 922,778人
 - イ 中学校 実施学校 9,146校 集計対象生徒数 842,491人

3 調査の活用

- (1) 各学校においては、調査結果を踏まえ、個々の児童生徒の全般的な学習状況の向上等に努めるとともに、教育指導等の向上に向けて計画的に取り組む。
- (2) 本市教育委員会においては、調査結果を踏まえ、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、市内の教育及び教育施策の向上に向けた取組を推進する。

4 結果の概要

平均正答率を全国と比較すると、小学校は国語・算数ともに全国平均を上回りました。全国平均を下回った学校においては、基礎・基本の定着を図るため、現行の指導に加え習熟の時間を確保する継続的な取組が求められます。

中学校は国語・数学ともに全国平均を上回りました。英語は基準を上回る生徒の割合が高い結果となりました。今後、希望進路の実現に向け生徒一人ひとりの学習状況に応じた学習支援を推進します。

質問紙調査の「授業について」では、「応用する力」に関する項目で全国平均を上回りました。探求的な学びの充実により、目的を明確にして情報を発信する習慣が身につけていると考えられます。

家庭学習時間の確保においては、昨年度と同様に課題が見られる結果となりました。児童生徒及び家庭の実態に応じて、学習内容や学習環境など、望ましい家庭学習の在り方を具体的に発信する必要があります。

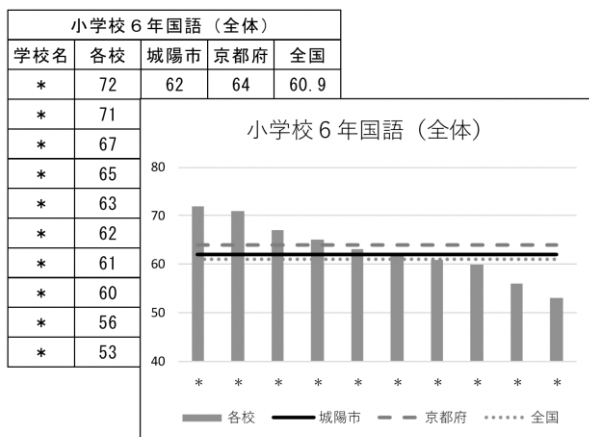
また、朝食や就寝ともに不規則である児童生徒の割合が昨年度より増えています。学力及び登校意欲の向上のために、生活指導及び家庭啓発を一層強化する必要があります。

5 小学6年国語の結果

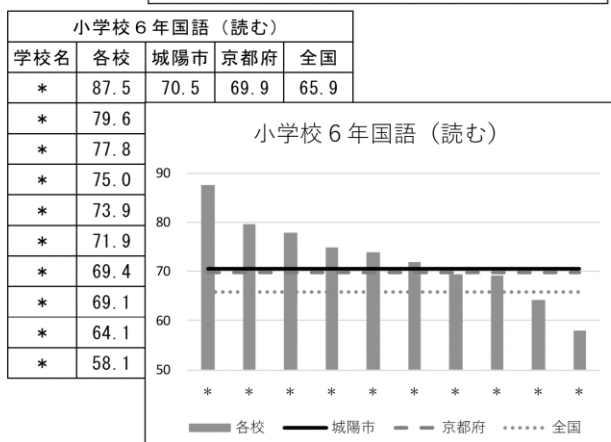
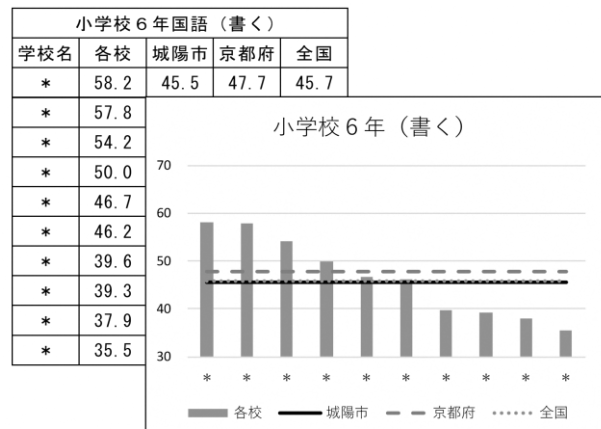
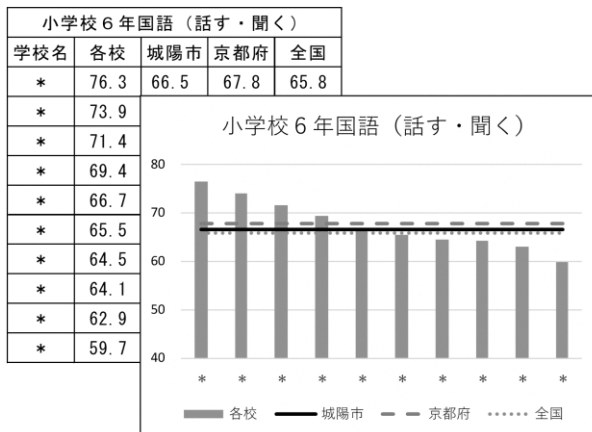
- ・城陽市における「全体」の平均は、全国平均を 1.1 ポイント上回りました。「読む」領域では 10 校中 8 校が全国平均を上回りました。
- ・正答率が低い学校は「書く」と「読む」領域が弱い傾向にあります。国語の授業時間以外にも書物に触れる機会を確保するなど、語彙を広げるとともに、文の構造をつかむ力を育成する手立てを講じる必要があります。

(1) 調査の状況

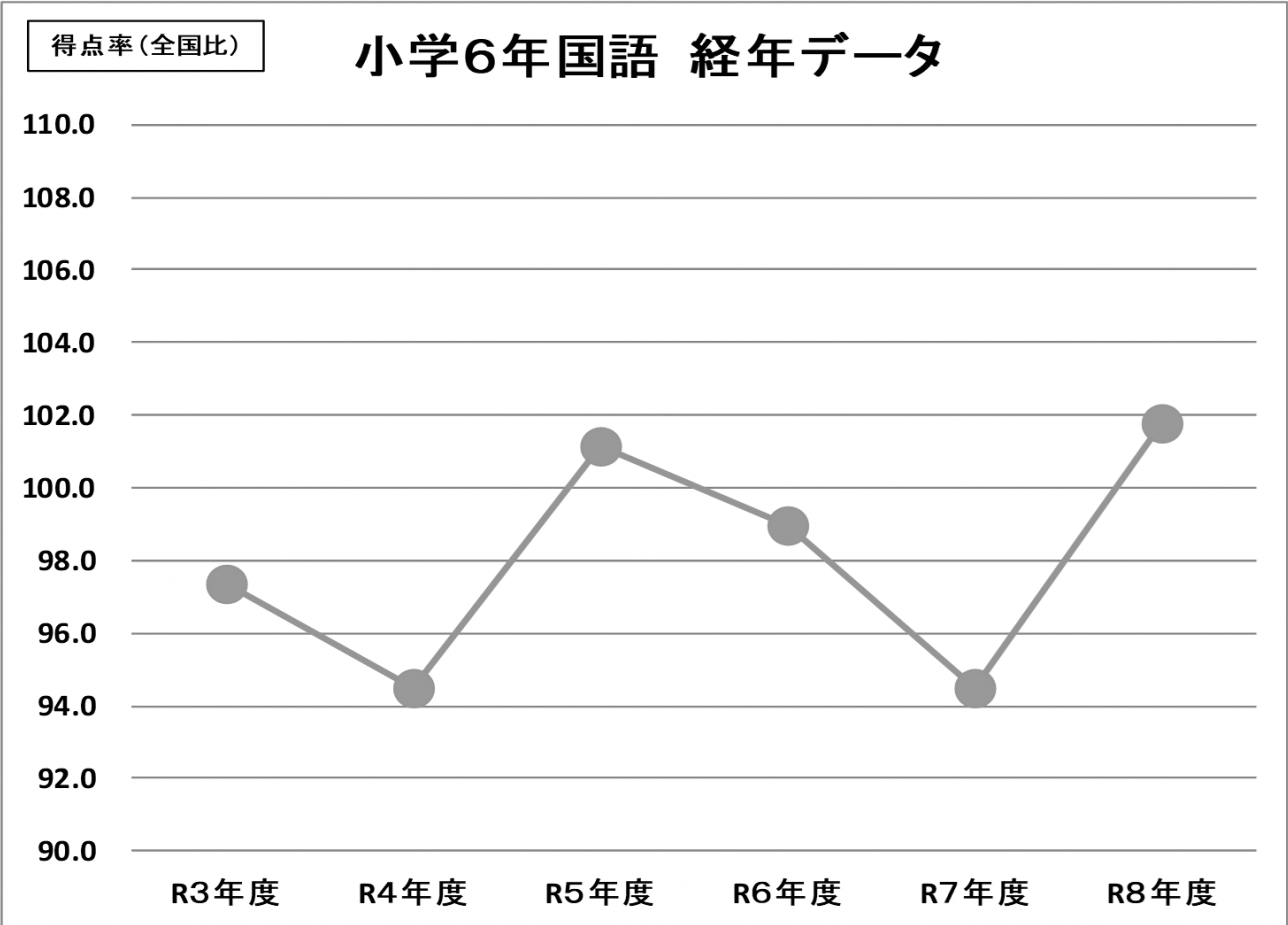
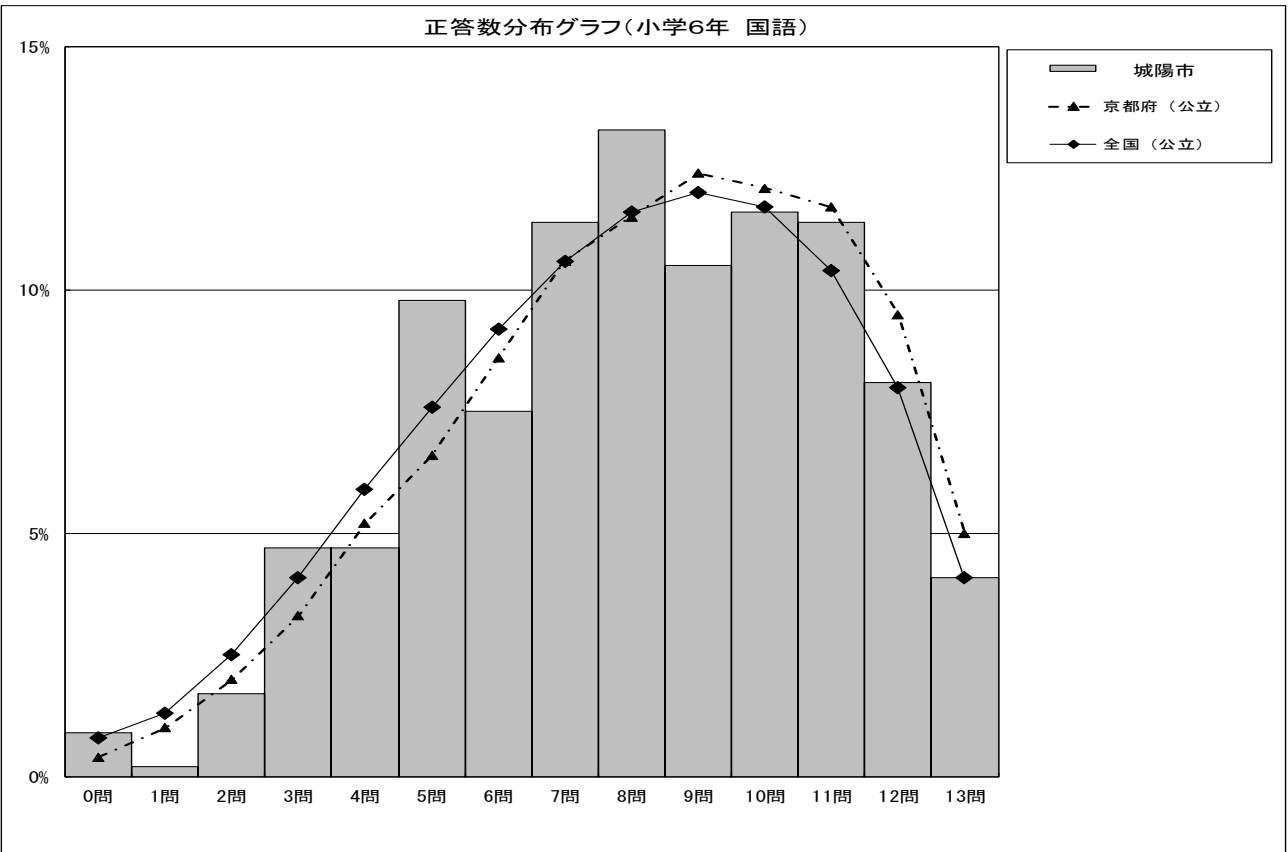
＜全体の結果＞ 【標準偏差：城陽市 2.9 京都府 2.9 全国 3.0】



＜領域別の結果＞



(2) 正答数分布グラフ・経年データ

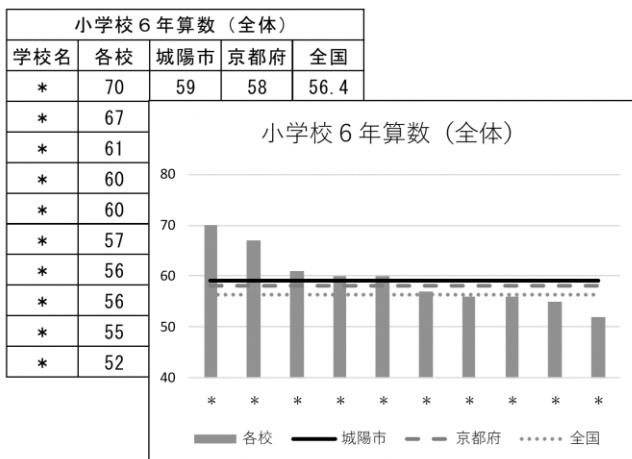


6 小学6年算数の結果

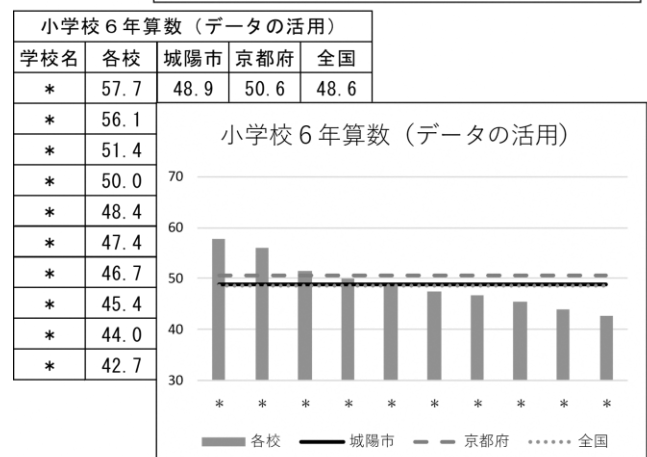
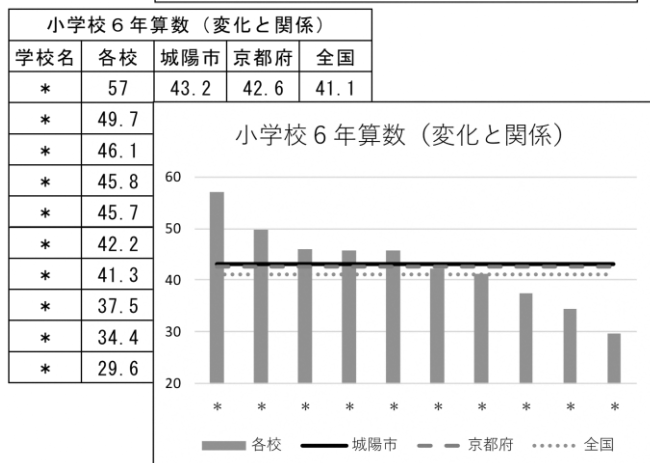
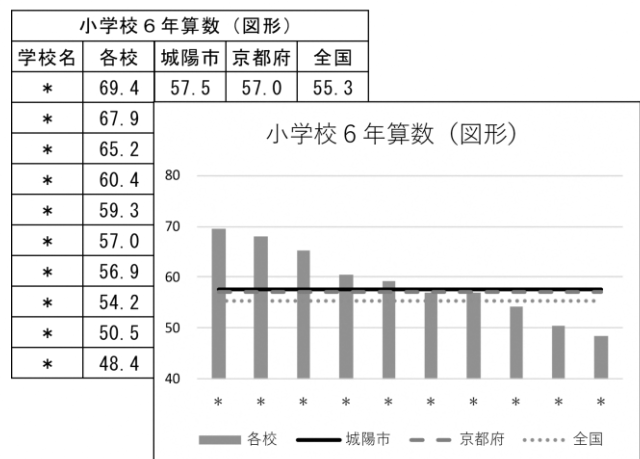
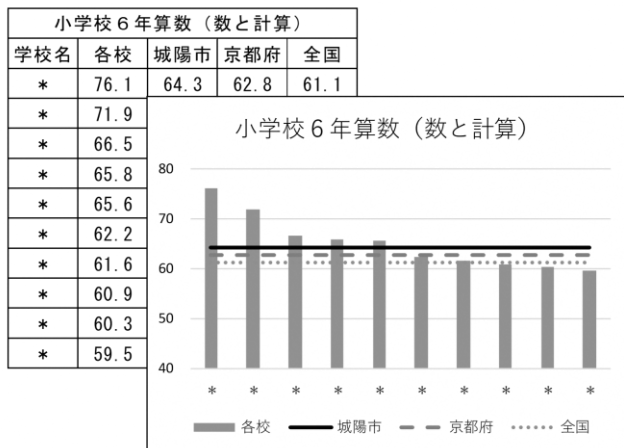
- ・城陽市における「全体」の平均は、全国平均を2.6ポイント上回りました。
- ・「図形」と「変化と関係」の領域に課題がある学校があります。式の意味理解が不十分だと考えられます。図形の特徴を理解させるための方眼紙を切ったり並べたりする操作活動や、具体物を用いて数量の変化を捉える体験的な活動を取り入れることで意味理解を促すことが求められます。また、考えたことを自分の言葉で説明する活動を積み重ね、深い理解につなげる必要があります。

(1) 調査の状況

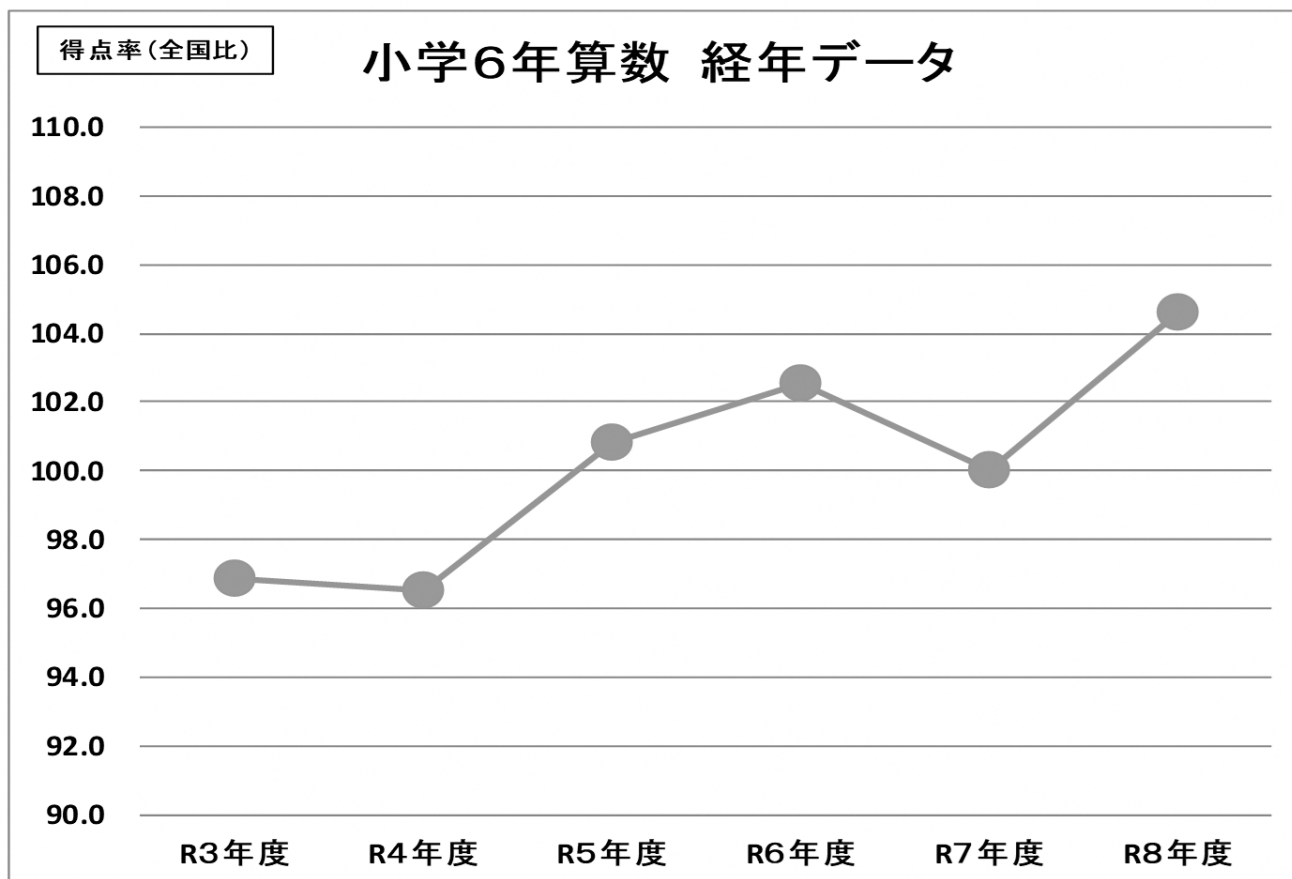
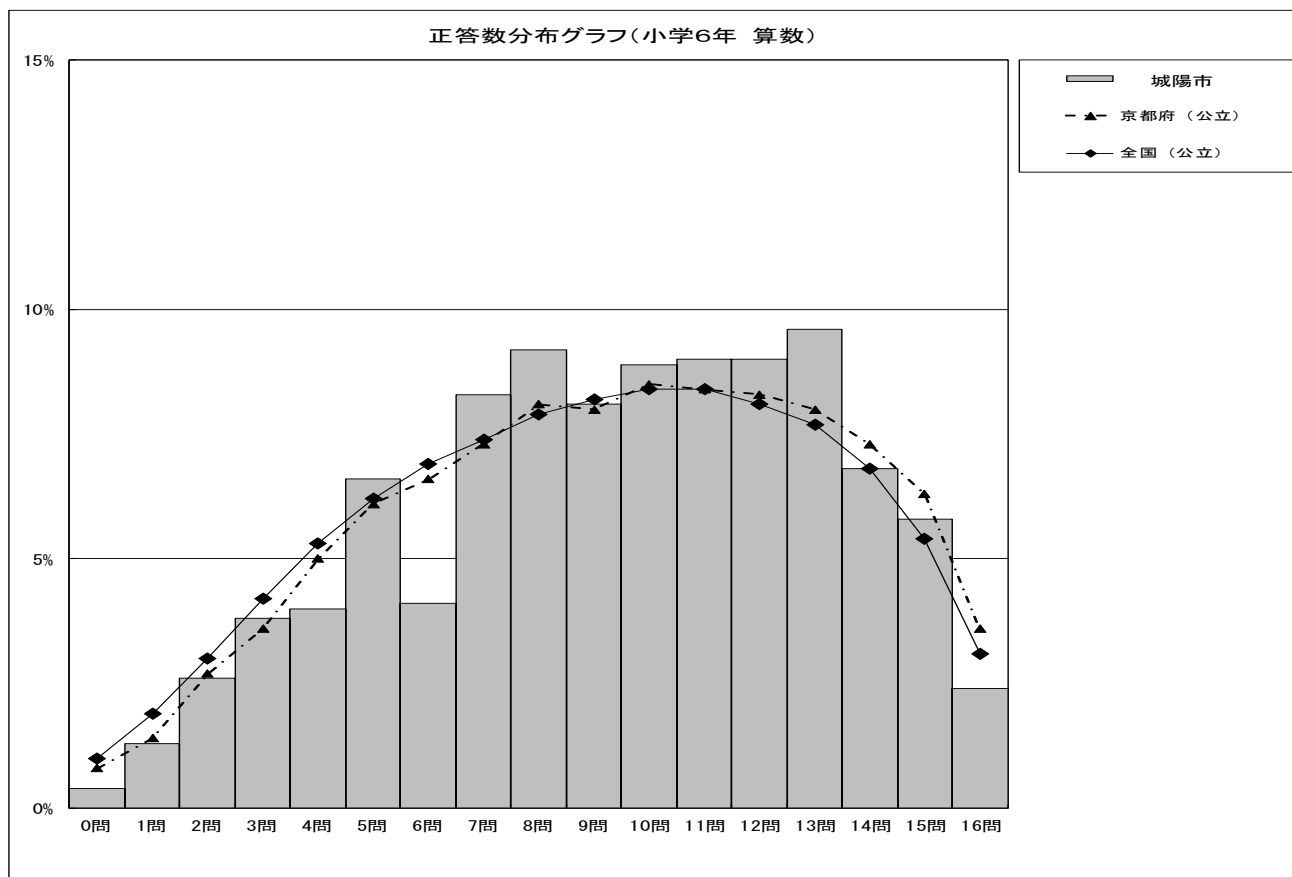
＜全体の結果＞ 【標準偏差：城陽市 3.8 京都府 4.0 全国 4.0】



＜領域別の結果＞



(2) 正答数分布グラフ・経年データ

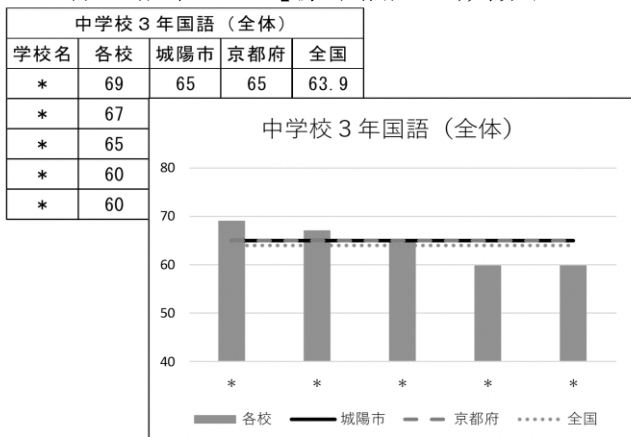


7 中学3年国語の結果

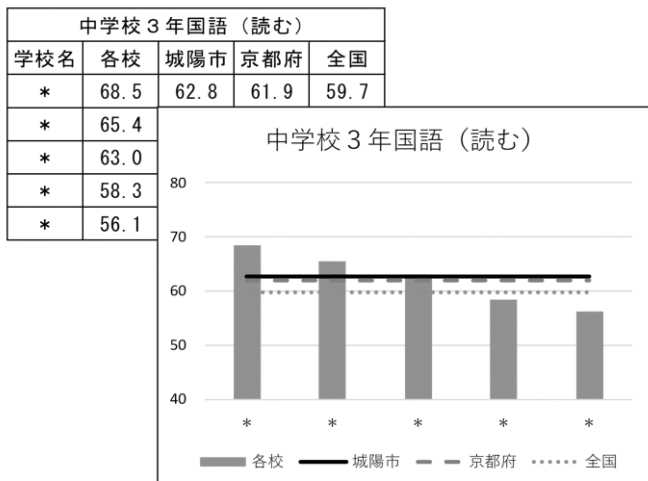
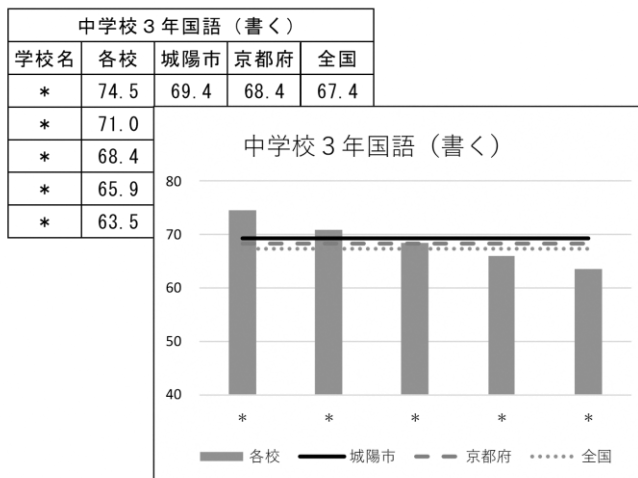
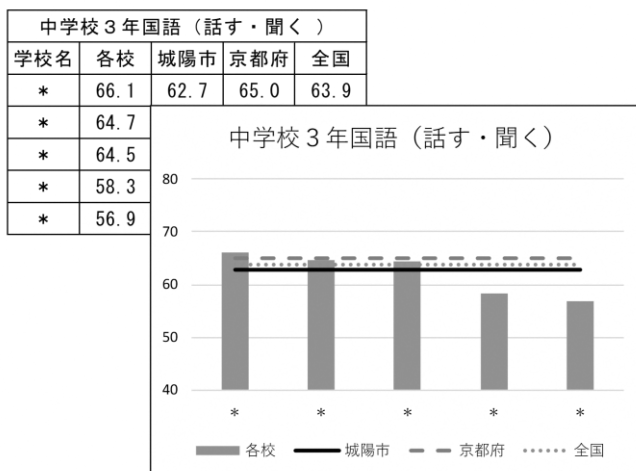
- ・城陽市における「全体」の平均は、全国平均を1.1ポイント上回りました。
- ・「話す・聞く」の領域に課題がある学校があります。場面や目的に合った話し方への理解を深める必要があります。伝わりやすい話し方を意識させ、論理的に意思表示をする技能を伸ばす活動の充実が求められます。

(1) 調査の状況

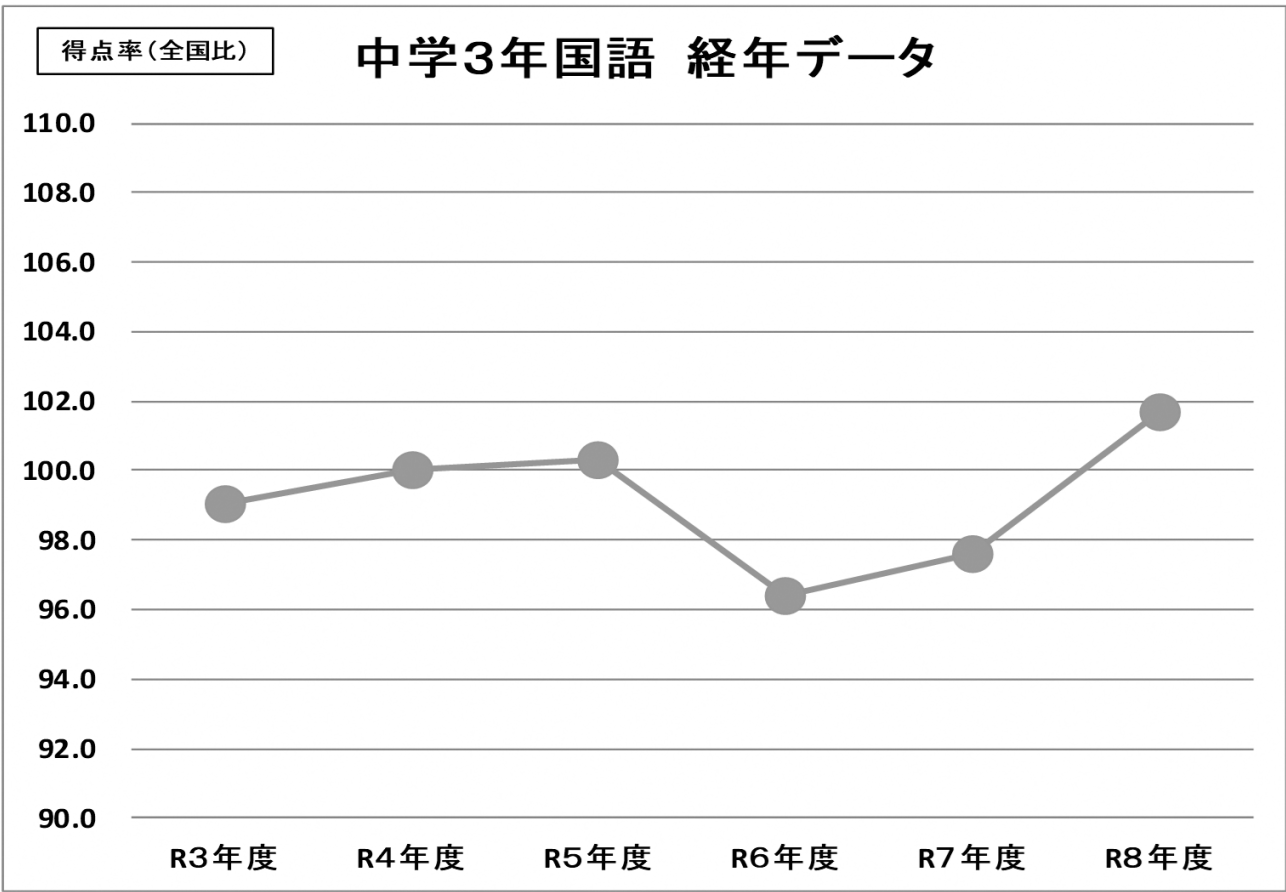
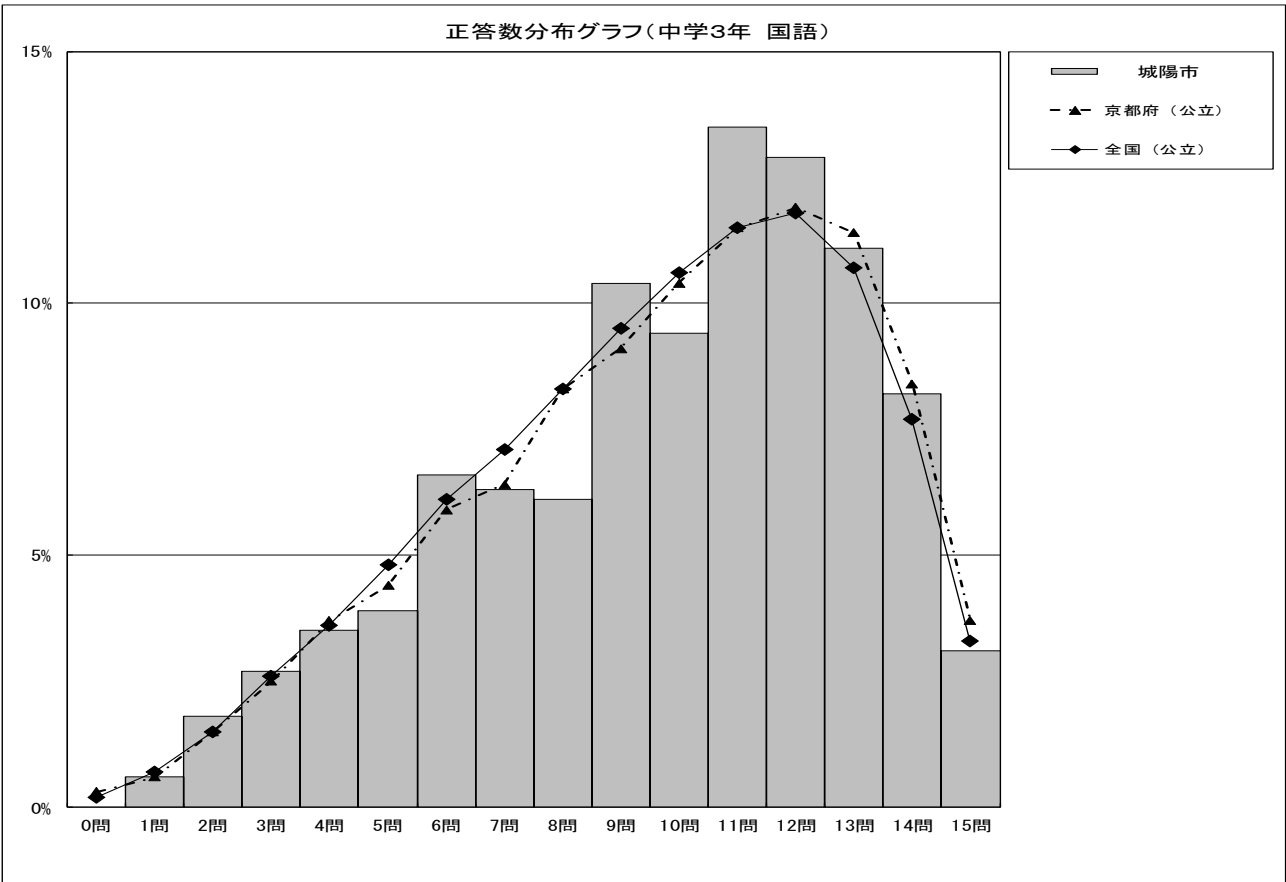
＜全体の結果＞ 【標準偏差：城陽市 3.3 京都府 3.3 全国 3.3】



＜領域別の結果＞



(2) 正答数分布グラフ・経年データ

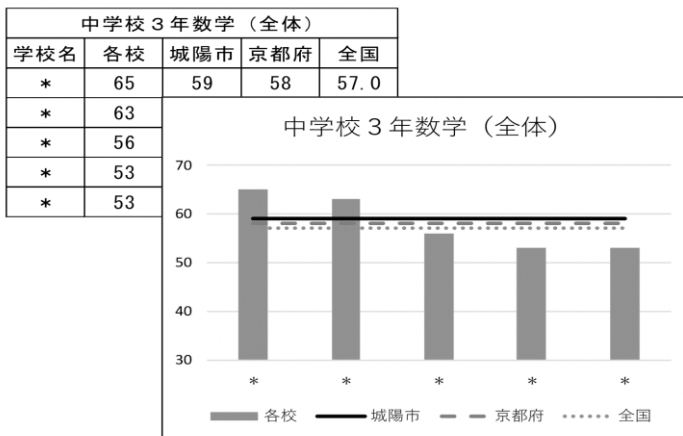


8 中学3年数学の結果

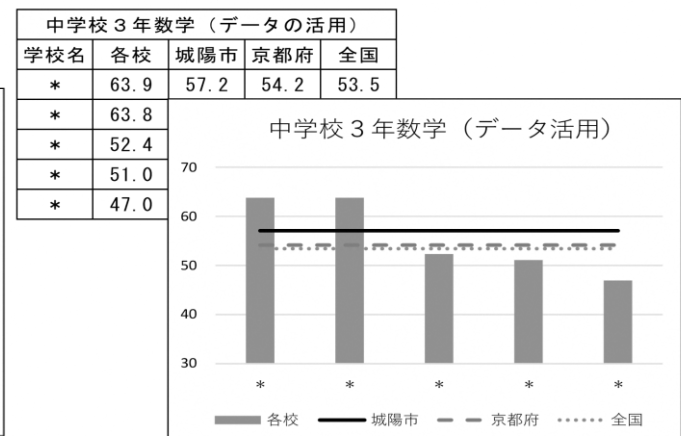
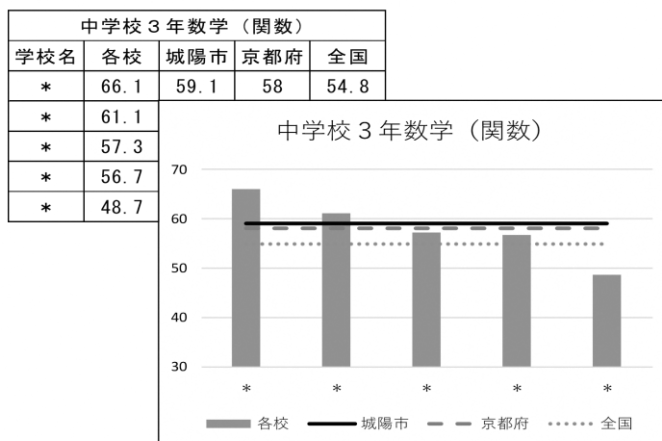
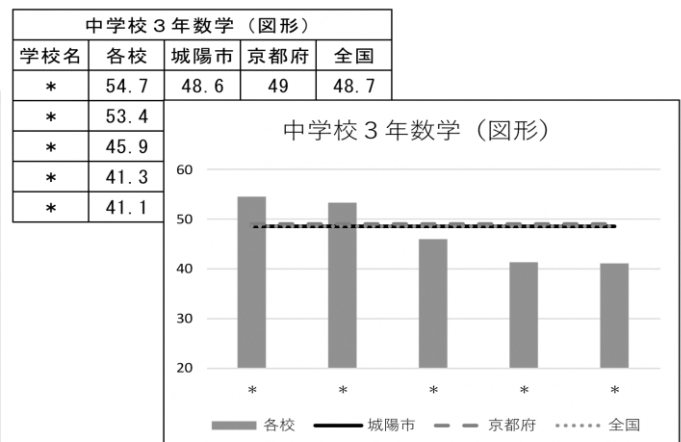
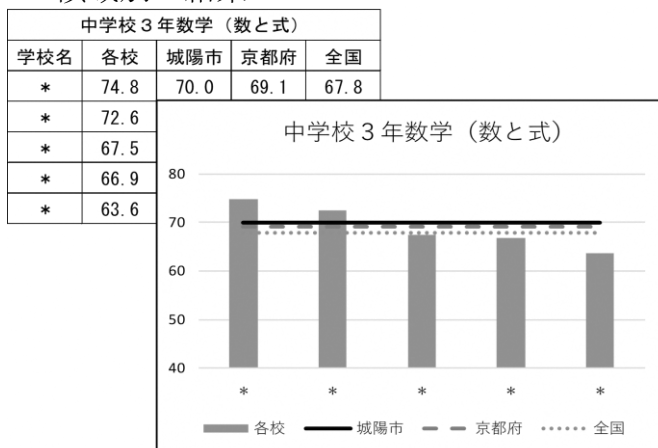
- ・城陽市における「全体」の平均は、全国平均を2ポイント上回りました。しかし、正答率分布グラフから、低位層の生徒が一定数いることが分かります。基礎・基本の定着を図る丁寧な支援を継続することが求められます。
- ・「図形」「関数」「データ活用」の領域に課題がある学校があります。学習を身近な事象と結びつける工夫を取り入れることで、数学を学ぶ意義を生徒に感じさせることが必要です。生徒の「わかる体験」を多く確保する支援の充実が求められます。

(1) 調査の状況

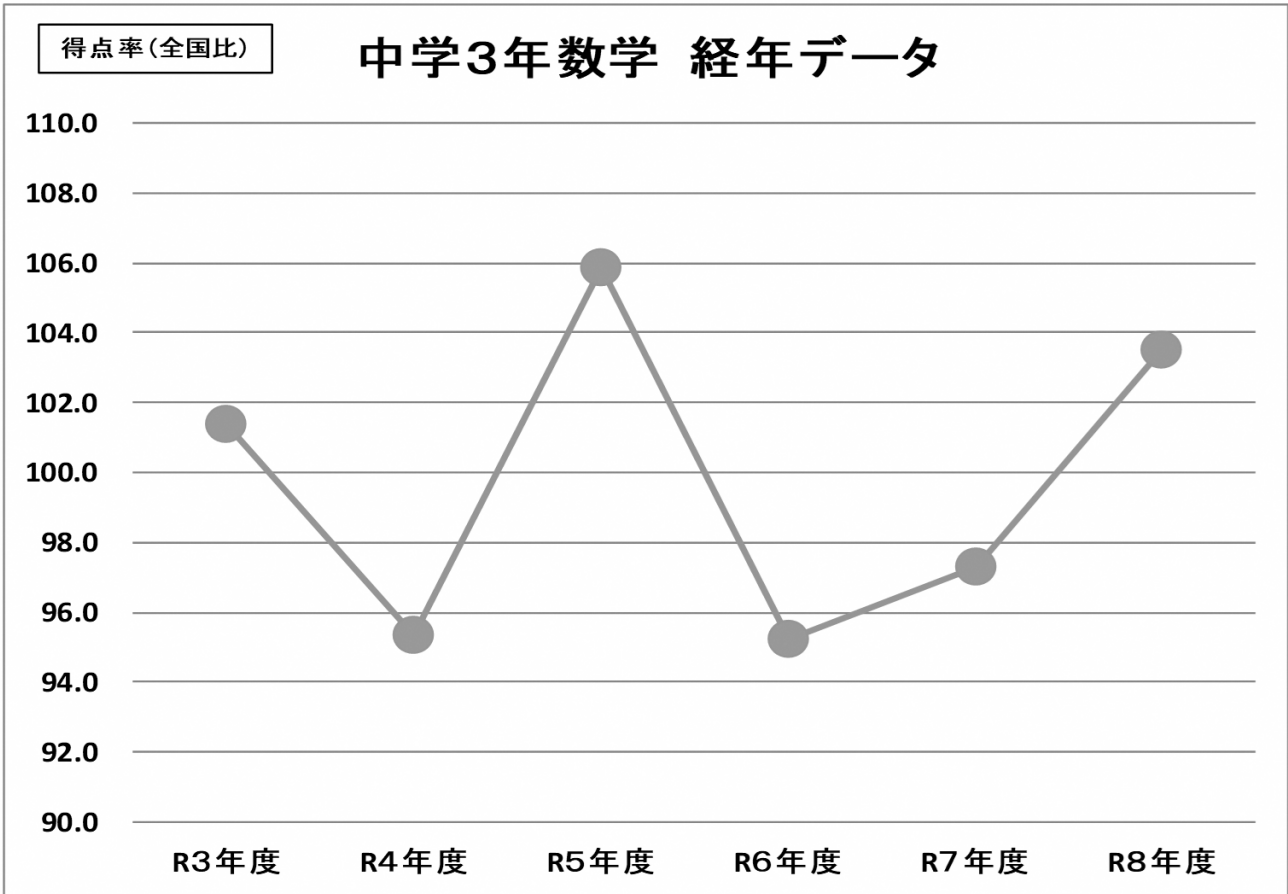
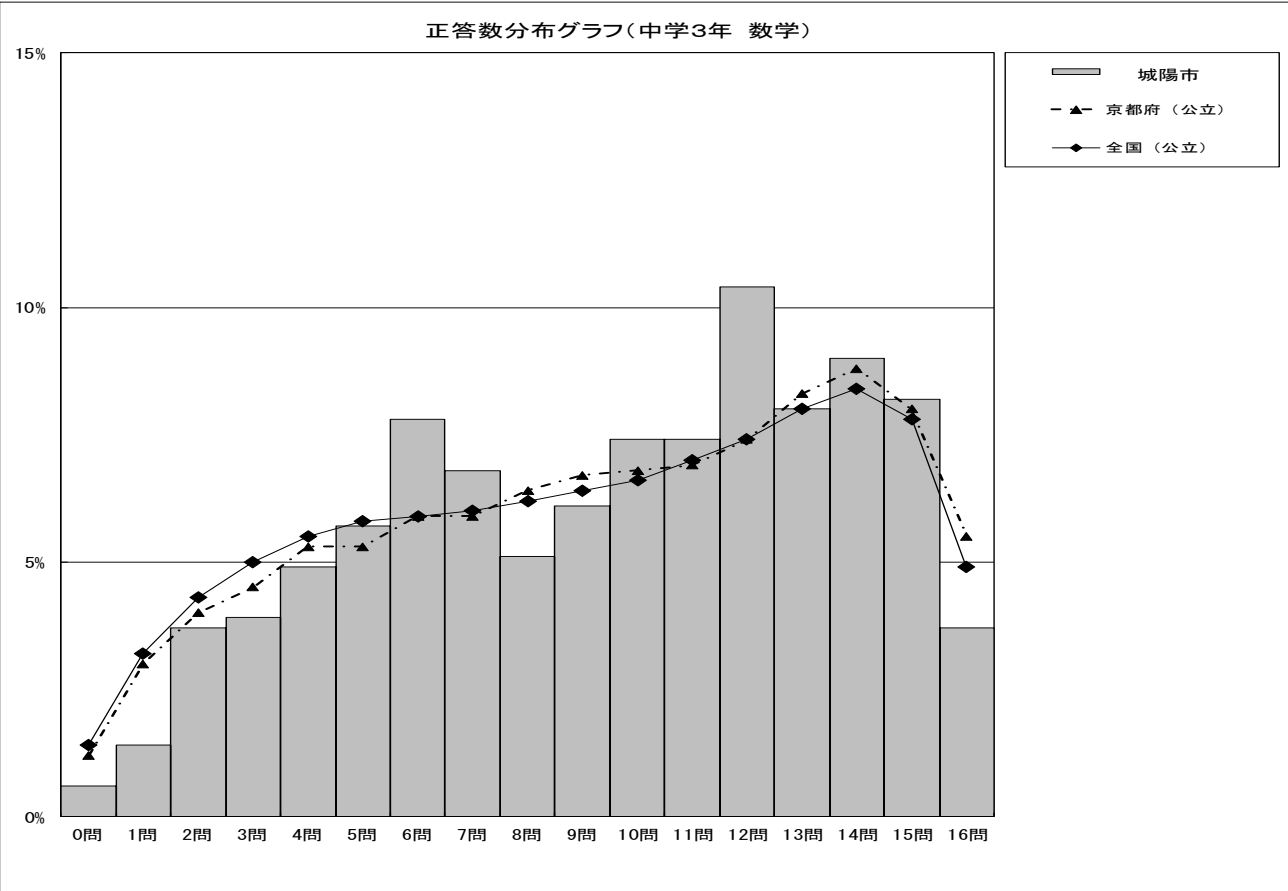
＜全体の結果＞ 【標準偏差：城陽市 4.1 京都府 4.4 全国 4.4】



＜領域別の結果＞



(2) 正答数分布グラフ・経年データ



9 中学3年英語の結果

○中学校英語について

英語テストは3年に一度を目安に実施します。令和8年度「中学校英語」には非公開問題が含まれています。結果はこれまでの正答数・率に代えて、*IRTスコア・バンドで表示・返却されました。

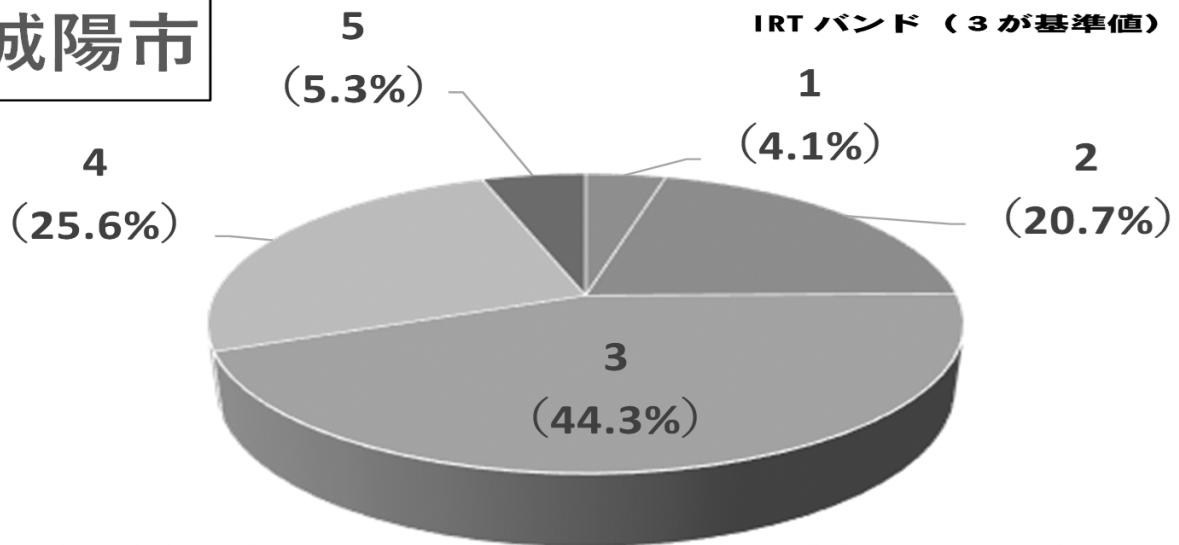
*IRTスコア・・・テストの一種。児童生徒の正答・誤答が問題の特性（難易度・測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する理論。

*IRTバンド・・・推定された学力スコアを5分割して表示するもの。「3」を基準のバンドとし、「5」が最も高いバンドとなる。
（出典：文部科学省ホームページ）

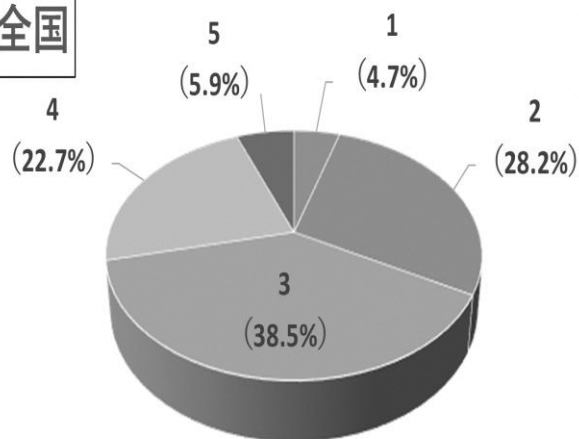
○中学3年英語の結果 【標準偏差：城陽市 2.0 京都府 2.1 全国 2.1】

全国に比べ、基準を下回る「1」「2」のバンドの割合が低く、「4」「5」の割合が高い結果となりました。AETの配置の充実により英語への学習意欲を高く持つことができていると考えられます。

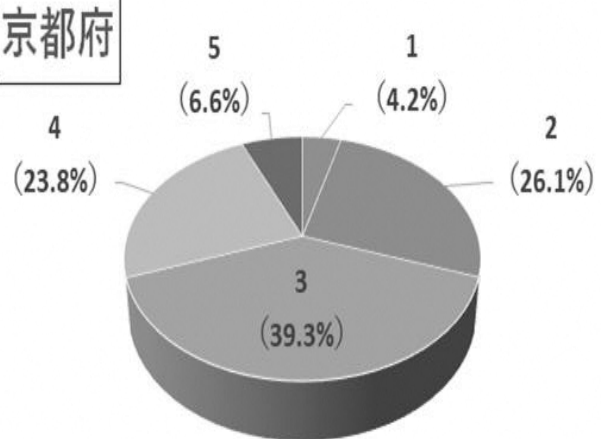
城陽市



全国



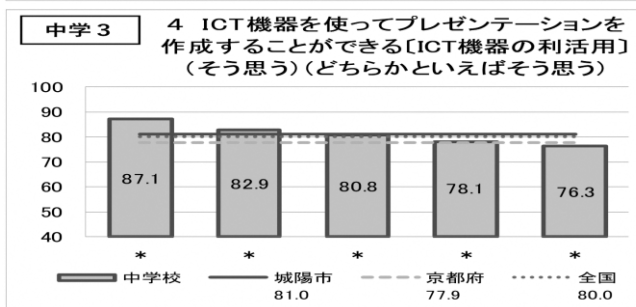
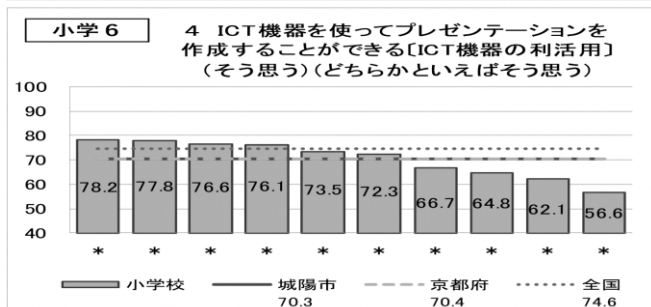
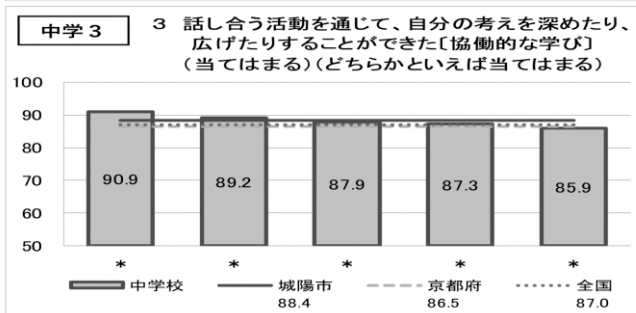
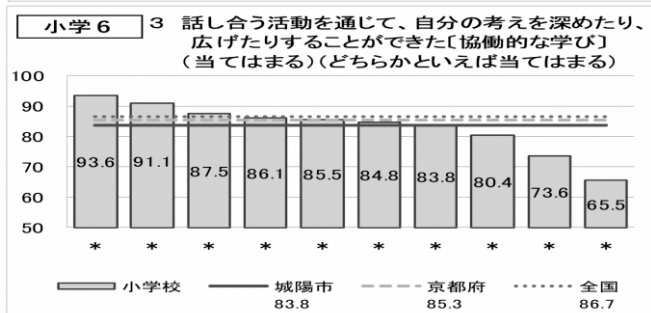
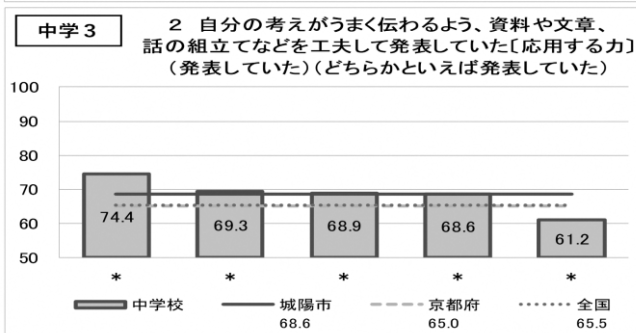
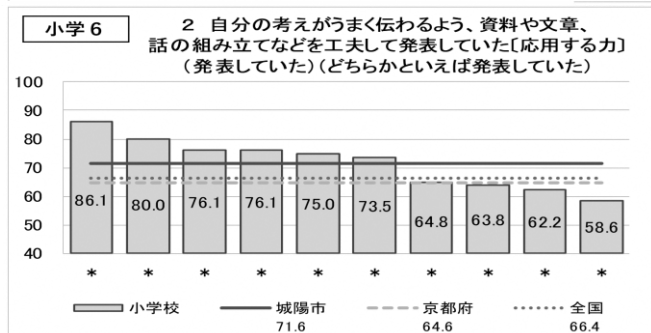
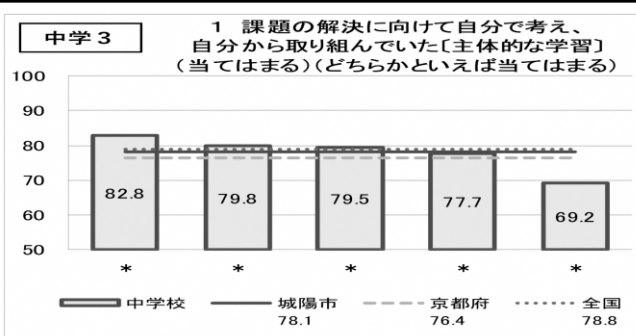
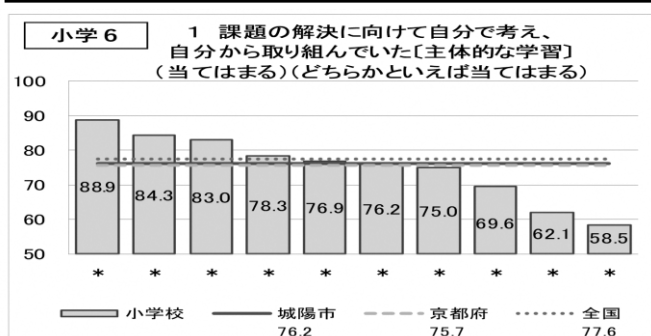
京都府



10 質問調査の結果

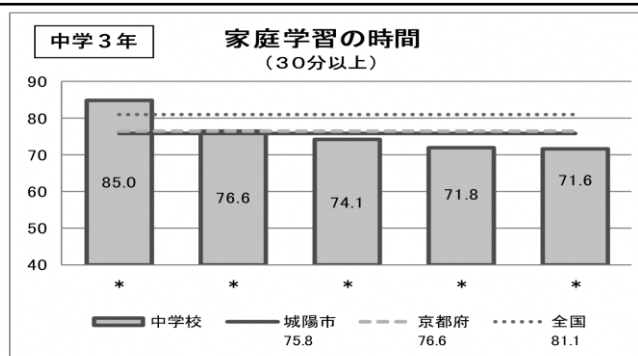
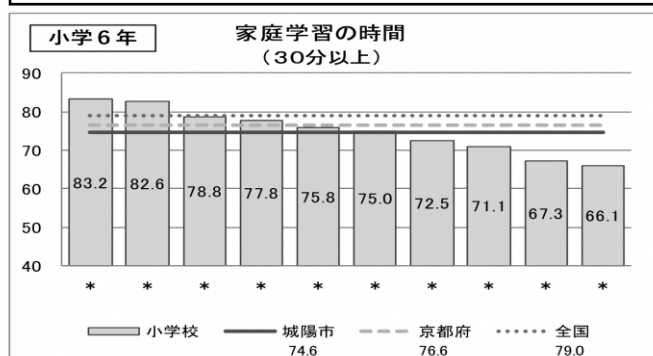
(1) 授業について

- ・ 1の「主体的な学習」に関する項目は全国平均を下回りました。数値が低い学校においては、学習意欲の向上を図るため、児童生徒一人ひとりの学習進度に合った支援の充実が求められます。
- ・ 2の「応用する力」に関する項目は全国平均を上回りました。探求的な学びの充実により、目的を明確にして情報を発信する習慣が身についています。
- ・ 3の「協働的な学び」に関する項目に課題が表れた小学校があります。他者の意見から学びを深める視点や、学び合い活動の意義を児童に理解させる必要があります。
- ・ 4の「ICT機器の利活用」では小学校で全国平均を4.3ポイント下回りました。情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力であるため、数値が低い学校においてはICTを利活用する力を育成する指導を教科横断的に行うことが求められます。



(2) 家庭学習について

- ・家庭学習の時間が「30分以上」と回答した割合は、小学6年、中学3年ともに全国平均よりやや低い割合となっており、家庭学習の習慣づけが求められます。計画的に学習できるよう、学びに向かう力と学びを調整する力を育成することが必要です。また、児童生徒及び家庭の実態に応じて、学習内容や学習環境など、望ましい家庭学習の在り方を具体的に発信する必要があります。



(3) 生活習慣等について

- ・朝食を毎日食べていると回答した割合は、小学6年は全国平均を上回りました。中学3年は全国平均とほぼ同程度でした。
- ・毎日、同じくらいの時間に寝ていると肯定的に回答した割合は、小学校と中学校ともに全国平均を下回りました。
- ・朝食や就寝ともに不規則である児童生徒の割合が昨年度より増えています。学力及び登校意欲の向上のために、生活指導及び家庭啓発を一層強化する必要があります。

